

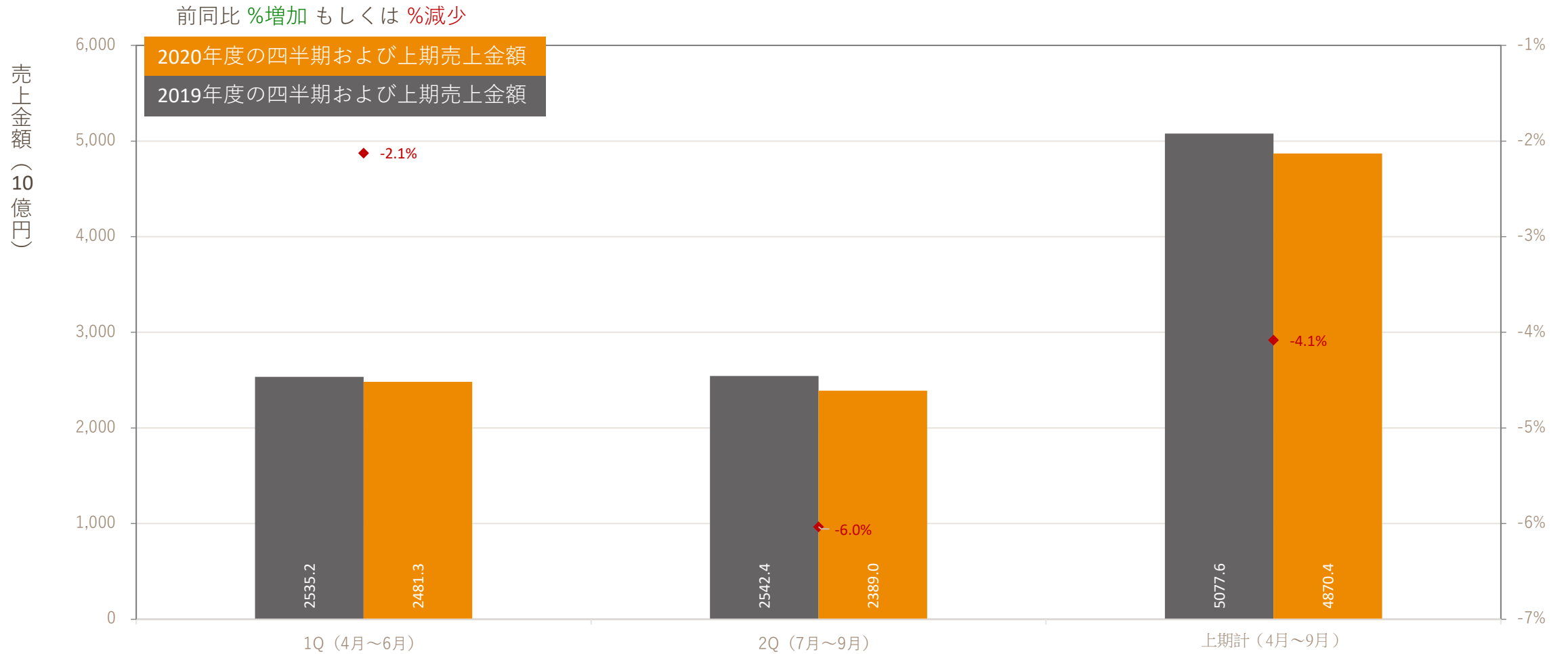
エンサイス スナップショットデータ

(薬価基準ベース)

2020年度上期 (2020年4月～2020年9月)

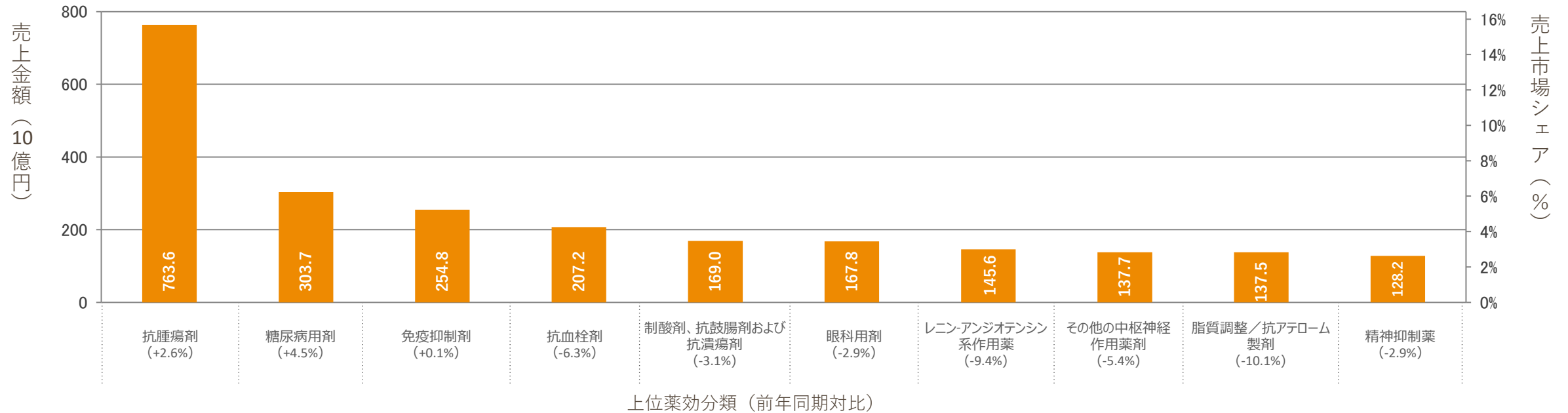
本レポートは、エンサイスが収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、エンサイスは本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

過去との比較（前年同四半期および前年上期比） データ期間：2020年4月～2020年9月



医療用医薬品売上上位10薬効分類

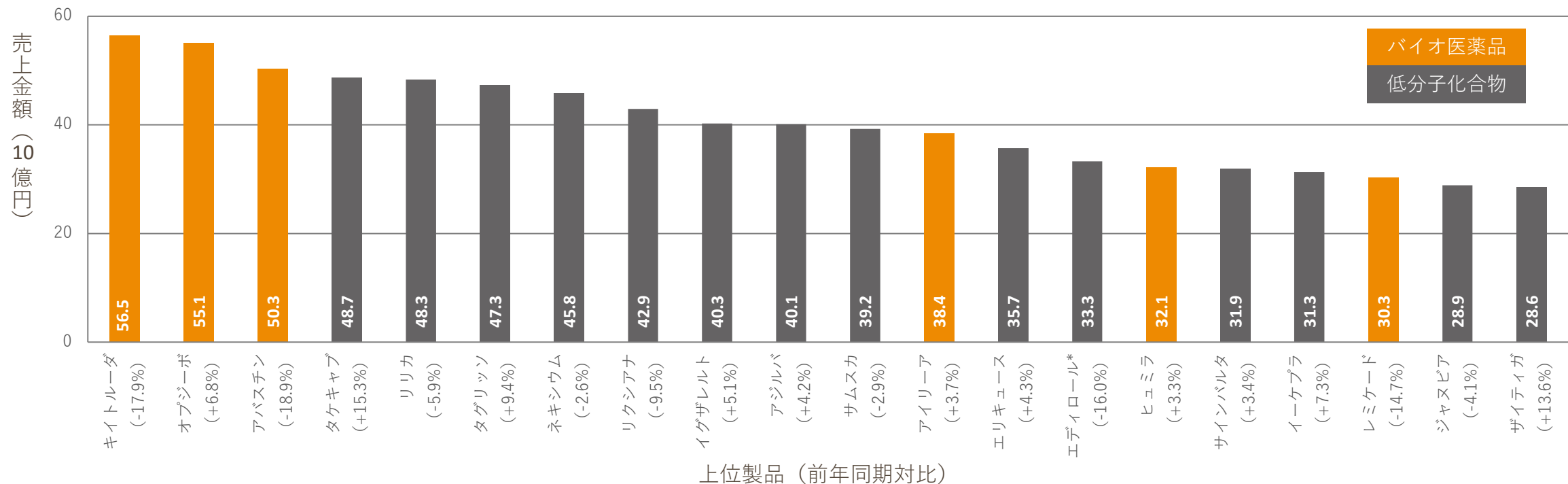
データ期間：2020年4月～2020年9月



- 上位10薬効分類の売上高は2兆4,152億円（前同比2.0%減）、医療用医薬品総売上の49.6%を占めた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響により、上位10薬効分類のうち7薬効分類が前同比でマイナス成長であった。一方、糖尿病用剤、抗腫瘍剤、および免疫抑制剤の前同比は、それぞれ4.5%、2.6%、0.1%とプラス成長であった。
- **糖尿病用剤**：ビクトーザ（102億円、前同比43.2%増）、トラディアンス（65億円、88.7%増）、ジャディアンス（137億円、22.8%増）が、全体の前同比4.5%増のプラス成長に大きく貢献した。
- **抗腫瘍剤**：上位薬剤の中で、キイトルーダ（565億円、前同比17.9%減）およびアバスチン（503億円、18.9%減）はマイナス成長であったが、オプジーボ（551億円、6.8%増）およびタグリッソ（473億円、9.4%増）はプラス成長を維持した。全体の成長には、テセントリク（218億円、84.2%増）、オフエブ（194億円、32.5%増）、およびベージニオ（99億円、91.9%増）も寄与した。
- **脂質調整／抗アテローム製剤**：上位10薬効分類の中で最大の減少となった（前同比10.1%減）。これは、主にゼチーア*（191億円、前同比39.1%減）、クレストール*（99億円、16.1%減）、およびエパデール（72億円、16.4%減）の売上高減少が主な要因であった。

* 同ブランドによる合計売上金額

医療用医薬品市場上期売上 上位20製品 データ期間：2020年4月～2020年9月

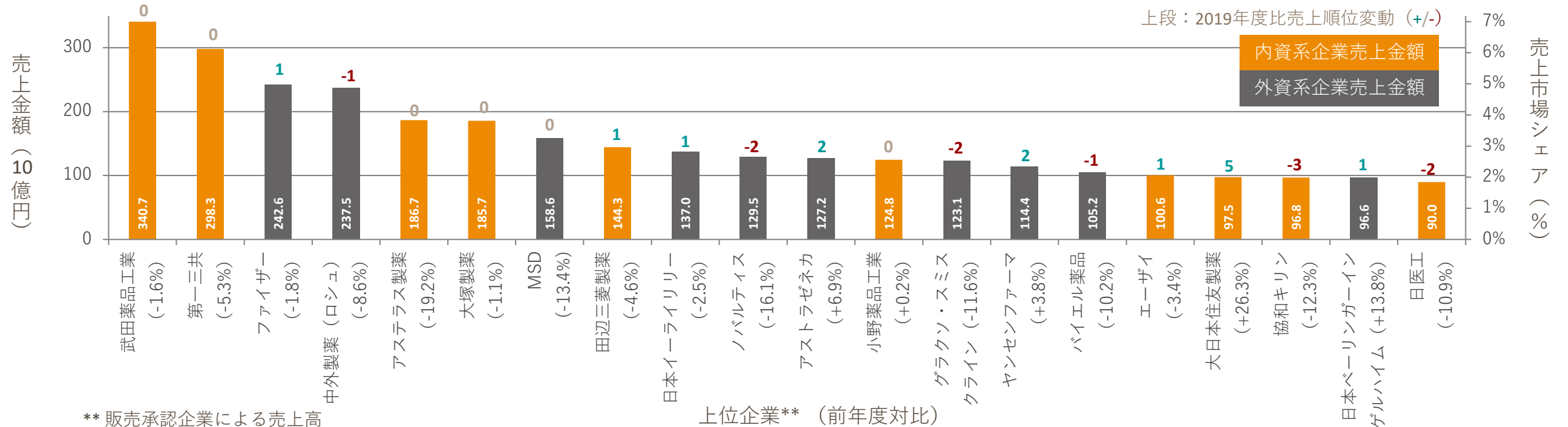


* 同ブランドによる合計売上金額

- 2020年度上期上位20製品の総売上高は8,050億円であり、医療用医薬品総市場の16.5%を占めた。
- 2020年度上期に上位20製品入りした製品：イーケプラ**（第17位）および**ザイティガ**（第20位）
- 2020年度上期に上位20製品から外れた製品：マヴィレット**（245億円、前同比26.5%減）および**ゼチーア***（191億円、39.1%減）**マヴィレット**は、C型肝炎患者の減少により大幅な売上減少となり、**ゼチーア***は2020年6月の後発医薬品発売の影響を受けた。

医療用医薬品売上上位20企業**

2020年4月～2020年9月



- 2020年度上期上位20社の総売上高は3兆1,371億円（前同比5.3%減）、医療用医薬品総売上の64.4%（0.8%ポイント減）を占めた。
- 上位20社のうち、内資系企業対外資系企業の売上高比率は約53：47であった（前年同期と同じ）。上位20社のうち、内資系企業の総売上高は1兆6,654億円（前同比5.2%減）、外資系企業の総売上高は1兆4,717億円（5.4%減）であった。
- 上位20社のうち、**武田薬品工業**および**第一三共**は上位2社の順位を維持した。上位20社のうち合計8社が順位を上げた—**大日本住友製薬**（5つ上昇、前同比26.3%増）（2019年11月1日付けでノバルティスより**エクア**および**エクメット**の販売権が移管されたことが主要因）、**ヤンセンファーマ**および**アストラゼネカ**（両社とも2つ上昇）、**ファイザー**、**田辺三菱製薬**、**日本イーライリリー**、**日本ベーリンガーインゲルハイム**、および**エーザイ**（それぞれ1つ上昇）。
- 前年同期と比較して合計6社が順位を下げた—**協和キリン**（3つ低下）、**ノバルティス**、**グラクソ・スミスクライン**、および**日医工**（それぞれ2つ低下）、**中外製薬**および**バイエル薬品**（それぞれ1つ低下）。
- 上位20社入りした企業は**大日本住友製薬**、外れた企業は**参天製薬**（前同比2.4%増）であった。